基準4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点4-1-①: 教育の目的に沿って、求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入 方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ、学校の教職員に周知され ているか。また、将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の入学者選抜は、本科の入学者選抜、本科4年次への編入学生選抜及び専攻科課程の入学者選抜を行っており、能力・適性において高等専門学校教育を受けるにふさわしい資質を有する者を、公正かつ妥当な方法で選抜するものである。また、いずれの選抜方法においてもアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法を関連付けて、入学者選抜を実施している。

本校のアドミッション・ポリシーは基本理念,教育方針,養成すべき人材像及び学習・教育目標 (資料 4-1-1-1) に対応し定められている。本科 (準学士課程) アドミッション・ポリシーに ついては、学校として明確に定められる (資料 4-1-1-1-1) とともに、各学科のアドミッション・ポリシーが各学科の目的に合わせて定められている (資料 4-1-1-1-1)。

アドミッション・ポリシーは、カレッジガイド、学校要覧、学生便覧、ホームページに掲載し、将来の学生を含めた社会に対して周知、配布を行っている。なお、本校ホームページにはカレッジガイドのデジタルパンフレットを掲載し、いつでもカレッジガイドがパソコン画面で本をめくるように見ることができる(資料 $4-1-\hat{\mathbb{Q}}-3$)。またカレッジガイドと学校要覧については、各中学校へ郵送するとともに、本校で開催する学校説明会、入学試験委員会委員が行う中学校訪問と入試説明会(資料 $4-1-\hat{\mathbb{Q}}-5$),及びオープンキャンパスにおいて、中学生、保護者、中学校教諭に対して配付すると同時にパワーポイントを使い、具体例を示してわかりやすく口頭で説明している。

「本科のアドミッション・ポリシー」

3 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

本校は入学者として次のような人を広く求めます。

学校としてのアドミッションポリシー

- (1) ものづくり、環境づくりに興味がある人
- (2) 基礎学力が備わっている人
- (3) 新しい目標にいつもチャレンジする人
- (4) 国際社会で活躍したいと思っている人
- (5) 自分で課題を考え、解決する能力を身に付けたい人

(出典 平成24年度学生募集要項, p. 1)

資料 4-1-①-3

「デジタルパンフレットに掲載された各学科のアドミッション・ポリシー」



(出典 本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/)



- い人
- 3. 未来のIT機器の開発をやってみたい人



物質工学科

- 1. 化学と生物の世界へ第一歩を踏み出したい人
- 2. 地球に優しいものづくりをしたい人
- 3. バイオの技術で社会に貢献したい人



環境都市工学科

- 1. 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
- 2. 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
- 3. 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人



(出典 本校ホームページ http://http://www.fukui-nct.ac.jp/~nyusi/policy.html)

「入試説明会概要と過去5年間の参加者数」

⑧ 入試説明会(10~11月)

福井県、滋賀県内を幾つかのブロックに分けて、校長・副校長・学科長・一般科目主任・教務主事補によって本校の紹介と入試の実際についての説明会を行っている(福井県10会場(11回)、滋賀県6会場)。昨年とほぼ同じ形式で実施しており、会場の一部を変更し、福井県内の説明会は、福井会場(2回)と高専会場(2回)以外は副校長と教務主事補がチームを組んで説明会を行った。なお、募集要項の内容や入試問題等の内容を昨年より多く分かりやすくしたスライドを作成し、入試説明会のマニュアルを改訂した。学科紹介用のスライドは、統一したデザインで各学科に作成を依頼した。過去5年間の入試説明会の参加者数の推移を下表に示すが、昨年度より生徒数で66名、合計で128名増加していた。福井新聞に9月に掲載された県教育委員会発表の高専志望者数も昨年度と比較して29名増加している。今年は福井県の中学3年生の人数が約300名減少したが、参加生徒数は幸いにも増加し、過去8年間では最多の人数となり、オープンキャンパスの参加者増に対応していた。

また、各中学校が主催する高校説明会にも積極的に参加するようにしている。今年度は昨年から6校増えて17校から参加依頼があり、副校長が10回、教務主事補が7回出席し入試に関する話を行った。なお、昨年までは丹南地区の中学校からの依頼が主であったが、今年度は滋賀県からの依頼が4校と増加し、大野や若狭地区からの依頼もあった。なお、2月には、中学校2年生に対する本校紹介の依頼が1件あり、教務主事補が参加した。

<過去5年間の入試説明会参加者数、県教委発表の高専希望者数(9月集計)の推移>

	生徒	保護者	教諭	計	県教委
23 年度	258	272	61	591	291
22 年度	351	337	61	749	312
21 年度	285	256	80	621	283
20 年度	268	223	65	556	254
19 年度	329	297	78	704	278

(出典 平成23年度自己点検・評価報告書, p. 64)

専攻科課程のアドミッション・ポリシーは、専攻科学生募集要項(資料4-1-①-6)及び学生便覧に記載し配布するとともに、ホームページで公開している。高等学校からの本科4年次編入学生については、アドミッション・ポリシーを編入学生募集要項に記載し(資料4-1-①-7)、ホームページでも公開している。また、ホームページで学生募集要項の電子ファイル及び入学試験担当窓口を公開し、社会へアドミッション・ポリシーが広く認識され、理解されやすいように努めている(資料4-1-①-8)。

また、教職員への周知に関しては、教員会議で説明するとともに、学生募集要項、専攻科学生募集要項、学校案内、学生便覧を毎年配布してアドミッション・ポリシーの周知を図っている。アドミッション・ポリシーの周知状況に関しては、平成24年4月に非常勤を含む全教職員を対象にアンケートを行った結果(資料4-1-(1)-9)、「よく知っている」、「ある程度知っている」と答えた割合は、本科(準学士課程)については92%とよく周知されていたが、専攻科課程については85%と若干周知度が落ちている結果となった。再雇用者を含む教員に対しては本科(準学士課程)について98%、専攻科課程について94%という結果であり、よく周知されていると考えられる。また、入学者選抜がアドミッション・ポリシーに基づいて実施されていることに対して、本科(準学士課程)、専攻科課程ともにほぼ全員に周知されているという結果であった。

資料 4-1-①-6

「専攻科課程アドミッション・ポリシー」

平成25年度 専攻科学生募集要項

I 募集人員

生産システム工学専攻 12名 環境システム工学専攻 8名

Ⅱ 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

福井工業高等専門学校専攻科では、次のような資質や意欲を持つ人を広く求めています。

- ・得意とする工学分野の基礎能力(数学的素養を含む)を身に付けている人
- ・何事にも自主的・能動的に臨む姿勢を持つ人
- ・ものづくり・環境づくりに意欲のある人
- ・多様なシステムを理解し、創造的にデザインする能力を身に付けたい人
- ・国際社会で活躍できる実践的技術者を目指す人
- ・学士(工学)の学位を取得したい人

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項, p. 1)

「編入学生募集要項に掲載された本科のアドミッション・ポリシー」

1 募集学科,募集人員及び編入学年,日程

募集学科	募集人員	編入学年
機 械 工 学 科電気電子工学科電子情報工学科物 質 工 学 科環境都市工学科	各学科とも 若干名	第4学年

出	願	期	問	平成24年8月6日(月)~8日(水)
選	抜	期	日	平成24年8月28日(火)
合	格者	発	表	平成24年8月31日(金)
編え	入学確	約書提	是出	平成24年9月7日(金)午後4時まで

2 入学者受入方針(アドミッションポリシー)

本校は、入学者として次のような人を広く求めます。

学校としてのアドミッションポリシー

- (1) ものづくり、環境づくりに興味がある人
- (2) 基礎学力が備わっている人
- (3) 新しい目標にいつもチャレンジする人
- (4) 国際社会で活躍したいと思っている人
- (5) 自分で課題を考え、解決する能力を身に付けたい人

(出典 平成25年度編入学生募集要項, p. 1)

資料4-1-①-8

「学生募集要項と入学試験担当窓口の案内」

○ 専攻科学生募集案内

平成25年度専攻科学生募集要項は、下記のとおりです。 出願希望者は、学生課入学試験係窓口配布の冊子を必ずご利用ください。

■ 平成25年度專攻科学生募集要項 📐 (4.3MB)



Get Adobe PDFファイルをご覧いただくためには「Adobe Reader」が必要です。 Reader たのボタンよりダウンロードして下さい。

入学試験担当窓口

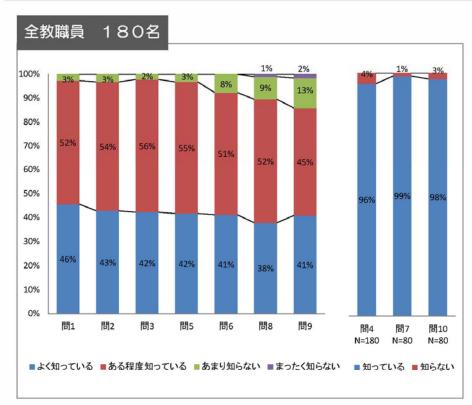
学生課入学試験係

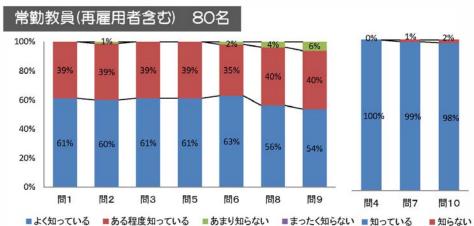
入学試験の実施、入学試験説明会情報、募集要項の請求などお気軽にお問合わせください。 TEL:0778-62-8290 E-mail:nyushi@fukui-nct.ac.jp

(出典 本校ホームページ http://www.fukui-nct.ac.jp/~nyusi/)

「アドミッション・ポリシー等の周知状況」

本校の学習・教育目標に関するアンケート集計結果





- 問1. 本校の基本理念を知っていますか。
- 問2. 本校の教育方針を知っていますか。
- 問3. 本校の養成すべき人材像を知っていますか。 問4. 本校の養成すべき人材像を急頭に、各学科が育成する技術者像及び専攻科が育成する技術者像(二環境生産システム工学 育プログラム(JABEE)が目指す技術者像)が定められていることを知っていますか。
- 問5. 本科(準学上課程;1~5年)の学習・教育目標を知っていますか。 問6. 本校のアドミッションポリシーを知っていますか。
- 問7. 本科における推薦入学者の選抜では、各学科におけるアドミッションボリシーに基づいた面接を行っていることを 知っていますか、
- 問8. 本校専攻科の学習・教育目標(二環境生産システム工学プログラム (JABEE) の学習・教育到達目標)を知っていますか。
- 問9. 本校専攻科のアドミッションポリシーを知っていますか。
- 問10. 本校専攻科における入学者の選抜(推薦・学力)では、専攻科におけるアドミッションポリシーに基づいた面接を 行っていることを知っていますか。

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、本科及び専攻科課程ともにアドミッション・ポリシーを明確に定め、ホームページに掲載するとともに、教員会議や学科会議において学校の教職員に周知している。教職員に対してアドミッション・ポリシーの周知状況を把握するためにアンケート調査を実施しており、アンケート結果から周知されていることが確認されている。また、学生募集要項等の配布、学校説明会等での口頭のプレゼンテーションを通じて、将来の学生を含めた社会に理解されやすい形で公表している。

観点4-2-①: 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校の入学者選抜は、本科の入学者選抜、本科4年次への編入学生選抜及び専攻科課程の入学者選抜を行っており、国立高等専門学校入学者選抜実施要項(資料4-2-①-1)に基づいて実施している。いずれの選抜方法においてもアドミッション・ポリシーと入学者選抜方法を関連付けて、入学者選抜を実施している。

本科の学力選抜では、独立行政法人国立高専機構で作成された国立高等専門学校入学者選抜学力検査問題を使用し、国語、社会、数学、理科及び英語の5 教科で実施しており、基礎学力を重視した選抜を行っている(資料4-2-(1-2)。また、調査書の中に本校のアドミッション・ポリシーへの適合について記入する欄を設けている(資料4-2-(1-3)。これは記載責任者の観点で入学志願者の適性を判断しているもので(資料4-2-(1-4),入試合否に関する資料の1つとなっている。本校の入学者選抜では、これらの結果を入学者選抜試験判定票に取りまとめているが、実際の資料は、訪問調査時の確認資料とする。

資料 4-2-①-1

「国立高等専門学校入学者選抜実施要項」

国立高等専門学校入学者選抜実施要項

平成16年4月1日 独立行政法人国立高等専門学校機構理事長裁定 一部改正 平成17年5月17日

第一 入学者選抜の基本方針

国立高等専門学校の入学者の選抜は、この実施要項に基づき、各国立高等専門学校の校長が行うものとし、能力・適性において高等専門学校教育を受けるにふさわしい資質を有する者を、公正かつ妥当な方法で選抜するものとする。

第二 入学者選抜の方法

- 1 入学者の選抜は、中学校長(中等教育学校長を含む。以下同じ。)から送付された 調査書の内容、学力検査の成績その他面接、作文等必要と認める資料により総合的に 判定する方法(以下「学力検査による選抜」という。)により、実施するものとする。
- 2 入学者の選抜は、前記1の選抜方法によるほか、校長の定めるところにより、入学 定員の一部について、中学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し、中学校長から送 付された調査書を主な資料として、総合的に判定する方法(以下「推薦による選抜」 という。)によることもできる。

この場合には、校長は、推薦の要件及び方法を具体的に定め、これを中学校長に提出して推薦を求めるとともに、入学志願者について面接を課すものとする。

第三 入学者選抜における留意事項

1 中学校長から送付された調査書は、能力・適性を判定するための基礎資料として活用しなければならない。この場合、入学志願者ごとに、その在学した学年の全生徒の学習成績一覧表を添付させる等、調査書の公正を期することに努めるとともに、合格者発表後、調査書に虚偽の記載を発見した場合は、当該学生の合格を取り消す等の適切な措置を講じるものとする。

(出典 独立行政法人国立高等専門学校規則)

資料4-2-①-2

「学力検査による選抜方法」

2 選 抜 方 法

(1) 学力検査による選抜は、学力検査の結果を主とし、これに調査書を加え、総合して判定します。

第1志望から第3志望を考慮し、最初に工学基礎コース(各学科8名程度)を選抜し、その後、工学基礎コースが合格とならなかった者も含めて、各学科の選抜を行います。

(2) 学力検査の期日

	10-1115	
期	日	平成24年2月19日(日)

(3) 学力検査科目及び検査時間

理科	英 語	数学	国 語	社 会
9:30~10:20	10:40~11:30	11:50~12:40	13:30~14:20	14:40~15:30

(出典 平成24年度学生募集要項, p. 8)

資料4-2-①-3

「アドミッション・ポリシーへの適合について」

総合所見						
見	アドミッションポリシーへの適合	(工)	(2)	(3)	(4)	(5)

上記の記載事項に相違ありません。

平成 年 月 日

(注) 調査書を作成するにあたっては、裏面「調査書の作成について」を参照してください。

(出典 平成24年度学生募集要項,調査書)

資料4-2-①-4

「調査書の作成について」

6 「総合所見」欄は、本人を総合的にとらえた特徴とし、入学者受入方針(学校としての アドミッションポリシー、P1参照)に適合するかもふまえて、簡潔に記入してください。 なお、アドミッションポリシーへの適合の欄には、当該生徒にあてはまる番号に○印を記入 してください(複数可)。

(出典 平成24年度学生募集要項,調査書)

本科における推薦選抜では、出身中学校の校長により推薦された者について選抜しており、推薦選抜には推薦要件アとイがある。アの要件では、調査書、作文及び面接の結果を総合して判定する。イの要件では、これに科学や技術の分野における優秀な成果の口頭発表に対する評価及び推薦書が加わる(資料4-2-①-5)。作文(資料4-2-①-6)及び面接内容は学科毎にアドミッション・ポリシーに沿った選抜方針に従い課題を指定している。作文、面接の評定は選抜方針に沿って行い、各学科で評定結果について検討した後、入学試験委員会の議を経て教員会議において合否を判定する。本校の入学者選抜では、これらの結果を入学者選抜試験判定票に取りまとめているが、面接内容を含めた実際の資料は、訪問調査時の確認資料とする。

資料 4-2-①-5

「推薦要件ア及びイによる選抜方法」

3 選 抜 方 法

- (1) 推薦要件の(4)のアによる選抜は、調査書を主とし、これに作文、面接の結果を加え、総合して判定します。
- (2) 推薦要件の(4)のイによる選抜は、調査書を主とし、これに作文、面接、口頭発表の結果及び推薦書を考慮し、総合して判定します。
- 注:「口頭発表」では、科学や技術の分野に関して収めた成果についての発表と質疑を行う(発表は10分以内)。 発表機材として本校において、OHP、プロジェクターを準備します。
- (3) 選抜の期日及び場所

期	日	平成24年1月22日(日)
場	所	福井工業高等専門学校 鯖江市下司町(「畑学力検査場案内図」参照)

(4) 作文, 面接及び口頭発表

ア 実施時間

作文	面接(口頭発表)
11:00 ~11:50	13:00 ~

イ 作文は課題により、面接は個人面接により実施します。

(出典 平成24年度学生募集要項, p. 5)

資料 4-2-①-6

「本科推薦選抜作文課題」

福井工業高等専門学校入学者選抜(推薦選抜)作文課題

【平成24年度入試】

機械工学科 私が興味を持ったものづくり

電気電子工学科 これからのエネルギーについて

電子情報工学科 災害と電子情報技術

物質工学科 持続的社会を達成するために化学とバイオの

技術ができること

環境都市工学科 災害から暮らしを守る構造物の設計の考え方とは

【平成23年度入試】

機械工学科 機械に興味がわいた私の経験

電気電子工学科 温暖化防止における電気電子技術

電子情報工学科 環境問題に役立つ電子情報技術とは

物質工学科 環境・エネルギー問題に化学や生物が挑戦できること

環境都市工学科 川はだれのものか、どうつき合うか

【平成22年度入試】

機械工学科 私が思う環境にやさしい機械

電気電子工学科 どんな電気電子技術者になりたいか

電子情報工学科 科学(技術)分野で、あなたがもっとも感動したこと

物質工学科 10年後に必要とされる化学や生物の未来技術

環境都市工学科「私が望む」まちづくり

(出典 学生課)

本科4年次への編入学生選抜は、学科毎の学力検査(作文を含む)、調査書、面接の結果を総合して判定し(資料4-2-①-7)、編入学生選抜実施要綱に従って行われる。面接の内容及び評定はアドミッション・ポリシーに沿って行い、各学科で評定結果について検討後、入学試験委員会の議を経て教員会議において合否を判定する。

資料 4-2-①-7

「編入学生選抜方法」

5 選抜方法等

(1) 選抜方法

編入学生の選抜は、学力検査(作文を含む。)、調査書及び面接の結果を総合して判定 します。

(2) 学力検査等の期日及び場所

期日	平成24年8月28日(火)
場	福井工業高等専門学校 鯖江市下司町 (裏表紙の「本校の位置と利用交通機関等」参照)

(3) 学力検査等の時間

専門科目	数 学	英語	作文	面 接
9:00~10:40	11:00~12:20	13:10~14:00	14:15~14:55	15:25~

(出典 平成25年度編入学生募集要項, p. 4)

専攻科課程入学者選抜は、推薦による選抜、学力による選抜、社会人特別選抜の3種類の選抜を行っている(資料4-2-①-8)。推薦による選抜は年1回行われ、推薦書、調査書、小論文、面接の総合判定により行い、アドミッション・ポリシーに沿った内容となっている(資料4-2-①-9)。学力による選抜は年に2回行われ、調査書、英語と数学及び専門科目の筆記試験と面接の総合判定により行い(資料4-2-①-10)、得意とする工学分野の基礎能力を重視した選抜を行っている。社会人選抜は社会人技術者の再教育を目的とし、所属企業等の長の推薦書、出身学校長の調査書及び小論文、面接の総合判定により行う。総合判定は福井工業高等専門学校専攻科入学者選抜実施要領に従って行われ、各選抜試験の面接の内容及び評定はアドミッション・ポリシーに沿って行い、各専攻で評定結果について検討した後、専攻科委員会の議を経て教員会議において合否を判定する。

資料 4-2-①-8

「専攻科入学者選抜方法」

Ⅲ 選抜方法

入学者の選抜は,**推薦による選抜、学力検査による選抜(前期・後期)及び社会人特別選抜** とし、次のとおり行います。

F /	選抜方法・日程				
区 分	推薦選抜	学力選抜 (前期)	学力選抜(後期) 社会人特別選抜		
出願期間	平成24年5月14日(月)	平成24年6月11日(月)	平成 24 年 11 月 5 日(月)		
口//9/2011月	~17 日(木)	~14 日(木)	~7 日(水)		
選抜期日	平成24年5月26日(土)	平成24年6月23日(土)	平成24年11月23日(金)		
合格者発表	平成 24 年 6 月 1 日(金)	平成24年6月29日(金)	平成24年11月30日(金)		
入学確約書提出期限	平成24年6月15日(金)	平成24年7月27日(金)	平成24年12月21日(金)		

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項, p. 1)

資料4-2-①-9

「専攻科推薦選抜の方法」

3. 選抜の方法

入学者の選抜は,以下のとおりとします。

- (1) 検査期日 平成24年5月26日 (土)
 - 当日は、午前9時までに集合してください。
- (2) 検査内容 面接
- (3) 検査会場 福井工業高等専門学校

なお,小論文の課題は,「入学の動機,研究計画及び将来の抱負(800字程度)」です。

- ※ 推薦による選抜における選抜基準は次のとおりです。
- (1) 出願時に提出された小論文等提出用紙の内容及び在籍学校長からの提出書類に基づいた面接(小論文に関する口頭試問を含む)において、本校専攻科のアドミッションポリシーにあった人材であると判定されること。
- (2) 上記(1)を満たした者に対して、次の3項目の総得点により合否を判定する。
 - 1. 出願時に提出された小論文の内容及び面接における評価点(10点満点)
 - 2. 在籍学校長からの提出書類における席次に対する評価点(20点満点)
 - 3. 在籍学校長からの提出書類における成績に対する評価点(20点満点)

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項, p. 3)

資料4-2-①-10

「専攻科学力選抜の方法」

(2) 学力検査科目及び出題範囲

	科	目		出	題	範	囲		
	英	語	一般英	哲					
١	数	学	線形代	数,微分積分	}(1変数及で	ブ2変数,行	微分方程式	で含む。)	
ı			A群	熱流体力学	, 材料力学,	工作法,]	C業力学,	材料(5分	·野)
			B群	電気回路,	電磁気学,電	3子回路,電	電子工学,	論理回路((5分野)
	専	門	C群	電気電子エ ウェア (5	.学,計算機] 分野)	匚学,計算机	幾システム	ゝ,計算機和	斗学,ソフト
			D群	有機化学・生 (4分野)	生物化学, 無	様化学・分	析化学,	物理化学,	化学工学
			E群	構造力学,	水理学,地盤	· 注工学,測量	量学(4分	·野)	

専門については、A~E群の中から一つを選び、群の中の問題から3分野の問題を選択し解答してもらいます。選んだ群及び分野以外の問題に解答しても採点されません。また、専門の筆記試験時間中は、本校から電子式卓上型計算機(CASIO fx-260A)を貸与します。貸与したものを使用してください。

- (3) 検査会場 福井工業高等専門学校
- ※ 学力検査による選抜における選抜基準は次のとおりです。
- (1) 出願時に提出された小論文等提出用紙の内容及び在籍(又は出身)学校長からの提出書類に基づいた面接(小論文に関する口頭試問を含む)において、本校専攻科のアドミッションポリシーにあった人材であると判定されること。
- (2) 学力検査における各科目の得点が、原則としてそれぞれ満点の40%を超えること。
- (3) 上記(1)及び(2)を満たした者に対して、次の4項目の総得点により合否を判定する。
 - 1. 出願時に提出された小論文の内容及び面接における評価点(10点満点)
 - 2. 在籍(又は出身)学校長からの提出書類における席次に対する評価点(20点満点)
 - 3. 在籍(又は出身)学校長からの提出書類における成績に対する評価点(20点満点)
 - 4. 学力検査各科目の得点の合計(350点満点)

(出典 平成25年度専攻科学生募集要項, p. 7)

(分析結果とその根拠理由)

本校の入学者選抜では、本科への入学者選抜、本科4年次への編入学生選抜及び専攻科課程の入学者選抜において、学力試験又は調査書に基づいて学力を判定するとともに、小論文、面接及び調査書より、アドミッション・ポリシーに関わる5つの観点に基づき評価選抜しており、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用され、実際の入学者選抜が適切に実施されている。

観点4-2-②: 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

本科及び編入学生選抜についての学生募集,入学者選抜の実施,入学者選抜の合格候補の選考に関する事項を審議する入学試験委員会が置かれ,教務主事,教務主事補,学科長,一般科目教室主任,事務部長によって組織されている(資料4-2-2-1)。アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかについて,学生募集と入学者選抜については入学試験委員会が,入学後の学生については教務委員会が管轄であるが(資料4-2-2-2),両委員会が連携して入学後の学生に対する基礎学力の検証,入学者選抜の改善を行っている。さらに,入学者選抜に関する1年生へのアンケート調査を実施し,入試に関する方針を決定するための基礎資料としており(資料4-2-2-3),継続的な入学者選抜の改善を行っている(資料4-2-2-3)。

資料 4-2-2-1

「福井工業高等専門学校入学試験委員会規則(抜粋)」

福井工業高等専門学校入学試験委員会規則

昭和41年2月1日規程第12号

改正 昭和44年 3月14日規程第 3号 昭和52年11月 1日規程第 5号 平成 3年 2月21日規程第 1号 平成17年 3月10日規則第 1号 昭和47年 4月26日規程第 2号 昭和54年 3月24日規程第 5号 平成 7年 3月30日規則第 1号 平成21年 3月30日規則第 2号

(設置)

第1条 本校に、入学試験委員会(以下「委員会」という。)を置く。 (審議事項)

- 第2条 委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。
- (1) 学生募集に関する事項
- (2) 入学者選抜の実施に関する事項
- (3) 入学者選抜の合格候補者の選考に関する事項 (組織)
- 第3条 委員会は、次の各号を掲げる委員をもって組織する。
- (1) 教務主事
- (2) 教務主事補
- (3) 学科長及び教室主任
- (4) 事務部長
- 2 委員会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会に委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。 (庶務)
- 第4条 委員会の庶務は、学生課が処理する。

(出典 本校規則集)

資料 4-2-2-2

「福井工業高等専門学校教務委員会規則(抜粋)」

福井工業高等専門学校教務委員会規則

昭和41年4月1日規程第9号

改正 昭和42年 4月 1日規程第 6号 昭和47年 4月26日規程第 2号 平成 3年 2月21日規程第 1号 平成17年 3月10日規則第 1号 平成22年 9月27日規則第11号 昭和44年 3月14日規程第 3号 昭和54年 3月24日規程第 4号 平成 7年 3月30日規則第 1号 平成21年 3月30日規則第 2号

(設置)

第1条 本校に教務委員会(以下「委員会」という。)を置く。 (審議事項)

第2条 委員会は、校長の命を受けて次の事項を審議する。

- (1) 教育課程及び授業時間割の編成等授業実施に関する事項
- (2) 特別活動、学校行事等に関する事項
- (3) 退学、休学、進級及び卒業の認定等に関する事項
- (4) その他教務に関する重要な事項

(出典 本校規則集)

資料 4-2-2-3

「新入生アンケート結果について(抜粋)」

議 事 録

会議の名称		入学試験委員会	平成23年度(第3回)			
H	時	平成23年6月14日(火)	15時30分~16時20分			
出界	席 者	会議構成員 15名 (定員15名)	その他の職員3名 計18名			
会	場	大会議室				

議題等

(1) 高専キャンパスウォークアンケート結果について

委員長から、資料No.1に基づき、参加者数及びアンケート集計結果について、昨年の同行事と比較し、参加者が約100名増加しているが、今年度は、6月にオープンキャンパスを行わないこともあり、入試に結びつくかは未知数との説明があった。また、8月のキャンパスツアーの参加者数を含め出願者数の動向についても検討したいと付言があった。

- (2) 新入生アンケート結果について
 - ■■委員から、資料No.2基づき、アンケート集計結果について説明があった。全体としては、昨年度と入学者の傾向は変わっていない、今年度より質問項目に加えた「22.学力診断テストの点数」に見る限り、9割以上の学生が330点以上の得点層にいる旨の報告があった。また委員長から、一定の学力の学生を確保できたと思われるとの補足説明があった。

(出典 平成23年度入学試験委員会)

資料 4-2-2-4

「本科推薦制度および学力検査の改正について(抜粋)」

議 事 録

会議の名称		入学試験委員会	平成21年度(第3回)			
日	時	平成21年6月3日(水)	16時20分~19時00分			
出層	常 者	会議構成員 15名 (定員15名)	その他の職員4名 計19名			
会	場	校長会議室				

議題等

(1) 入試対策(推薦要件、入試会場)について

委員長から前回委員会から継続審議の下記事項について、資料No. 1に基づき説明があり、委員から下記の意見が出された。

1. 推薦制度の改正

(a)推薦枠の増加

委員長からの他高専の推薦枠増の現状及び、推薦による優秀な学生の確保という 説明に対し、賛成の意見が複数あったが、推薦枠増は学力枠の減少であり、学力志 願者が減るのではとの慎重な意見もあり、教務主事団で再度検討することになった。

(b)推薦要件の改正

委員から、推薦ア要件(1)及び(2)の序列について、どちらを上位とするのか、中学校教員に序列について説明してもよいのかといった質問があった。

また、改正により一時的に倍率は上がるが、改正を実施するとこれ以上は下げることができない水準となるため、2年前に実施したことから、今年度は見送るべきとの意見があった。環境都市工学科からはぜひ実施してほしいとの意見があったが、今年度は、イ要件(推薦該当分野の増加)のみの改正で了承された。

2. 学力検査の改正

(a)学力入試会場の改善

委員から福井AOSSA会場での業務実施に対し、各教室の収容可能人数、志望者が増えた場合の対応等確認の意見があった。このことに対し、委員長及び学生課から事前の下見作業を入念に行い、資料のとおり前年度の問題対策は充分実施している、会場毎の志望者の増減については柔軟に対応するとの説明があった。

また、事務部長より、前年度入試時の問題点は、本部会場との連絡を密にすることにより、改善できるとの意見があった。以上から、会場改善の確認、了承を得た。

(b)学力入試;5会場の継続

委員より、福井AOSSA会場とあわら会場の距離関係、受検者数、会場分散に伴う教職員負担の増加の観点から、5会場継続の必要性を疑問視する意見があった。このことについては、委員長から、今年度は、坂井市、敦賀市にて生徒数の増加があり、また昨日締切のあじさいオープンキャンパス申込み状況からも、あわら、敦賀地域の志願者が増えているため、5会場で実施したいとの強い意見があり、審議の結果了承された。

(出典 平成21年度入学試験委員会)

また実際に本科に入学した1年次及び入学1年後の2年次に、基礎的な学力及び学力の定着を確認するため、1年次には数学と英語、2年次については数学の課題確認テストを前期授業が開始する前に実施するとともに(資料4-2-2-5)、入試制度を定期的に検証するためのデータとしている。

資料 4-2-2-5

「課題確認テストの実施日程」

4月の行事日程

月 日	曜	行 事 日 程
4月3日	火	・入寮式(10:30 ~) ・平成 2 4年度留学生チューター委嘱式(15:00~15:15,於:大会議室) ・外国人留学生(3年)オリエンテーション(15:15~,於:大会議室)
4 日	水	 ・平成24年度入学式(10:00~於:第1体育館)終了後ホームルーム(1年) ・ホームルーム(2~5年)(11:00~) ・教科書販売(2~5年)(ホームルーム終了後,於:第2体育館) ・教育後援会総会(12:00~,於:第1体育館) ・1~5年前期保護者懇談会(13:30~,於:教室)(教育後援会総会終了後) ・編入学生(4年)オリエンテーション(14:00~,於:小会議室1) ・専攻科1年オリエンテーション(入学式終了後,於:専攻科棟) ・専攻科2年オリエンテーション(14:00~ 於:専攻科構)
5 日	木	 ・一斉健康診断(本科・専攻科) ・1年入学前の課題確認テスト 数 学 10:00~10:50 英 語 11:00~11:50 ・1年キャリアガイダンス (13:00~13:40, 於:大講義室) ・2年課題確認テスト 数 学 13:30~14:20
6 日	金	前期授業開始

(出典 平成24年度行事日程)

その結果、平成19年度に推薦及び学力の各選抜で本科に入学した学生について、5年次までの創成系科目を含む、実験・実習系専門科目の成績を追跡調査したところ、いずれの選抜においても遜色なく高い平均点であった。このことから、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が各選抜でバランスよくできていることが確認された(資料4-2-2-6)。

資料 4-2-2-6

「平成19年度本科入学生の実験・実習科目における選抜別平均点」

学科	科目	学生の平均点	学力選抜で入学し た学生の平均点	推薦選抜で入学し た学生の平均点
	機械工作実習	83	80	88
	創造工学演習	78	78	79
操揺っぱむ	知能機械演習	83	82	た学生の平均点 88
機械工学科	機械工学実験[83	81	86
	機械工学実験Ⅱ	82	82	82
	アイデア設計工学	80	80	80
	電気電子工学実験!	83	82	85
	電気電子工学実験 Ⅱ	82	81	83
電気電子工学科	電子創造工学	81	80	82
	電気電子工学実験 III	84	85	86
	電気電子工学実験 IV	83	82	85
	情報基礎演習	74	73	74
	電子情報工学実験Ⅰ	81	79	85
 電子情報工学科	電子情報工学実験 II	80	78	83
电丁阴拟工子科	電子情報工学実験 III	79	77	82
	創造工学演習	80	78	83
	電子情報工学実験 IV	81	81	81
	物質工学実験Ⅰ	88	88	88
	物質工学実験 Ⅱ	85	84	87
物質工学科	物質工学実験 III	88	87	89
	材料工学実験	79	78	81
	生物工学実験	91	91	93
	環境都市工学実験実習Ⅰ	89	88	89
	環境都市工学実験実習 Ⅱ	88	87	89
環境都市工学科	環境都市工学実験実習 !!!	86	86	85
	環境都市工学設計製図Ⅰ	83	83	83
	環境都市工学設計製図 II	79	79	80

(出典 学生課)

また、専攻科課程の入学者選抜では、専攻科委員会が選抜方法の改善を検討しており、平成22年 度入試からは学力試験に専門科目の筆記試験を取り入れ、入学動機レポート(小論文)の提出を課す 等(資料4-2-2-7)、よりアドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れるよう継続的な 改訂を行っている。その結果、専攻科課程の修了率は高い値で推移している(資料4-2-2-8)。

資料 4-2-2-7

「入学試験制度の見直しについて(抜粋)」

第15回専攻科委員会議事録

日 時:平成21年1月14日(水) 13:30~16:55

場 所:専攻科棟ゼミナール室3

出席者:■■委員長、■■、■■、■■、■■、■■、■、■■、■■各委員

議類

1. 入学試験関係の見直しについて

委員長から、今回の委員会をもって専攻科入試の見直しの最終案を策定したい旨の説明があった後、各委員から、前回委員会(12月8日開催)以降、各学科等での入学試験関係の話し合いの状況報告があった。

この報告に基づき審議した結果、各学科等の話し合いの結果を考慮し、次のような専攻科 委員会見直し案とすることで了承された。

①推薦選抜

面接を行わない案を改め面接を行うこととした。

入学動機レポート(仮称)は、出願時提出とし、試験日当日はその内容に基づく面接を 実施することとした。

推薦要件:席次は3,4年次の学級順位の1/2以上

選抜方法:調査書(40点)・入学動機等レポート及びレポート内容に基づく面接(10 占)

実施時期:5月土曜日(平成22年度専攻科入試は、平成21年5月23日実施)

②学力選抜

筆記試験の専門は、各学科をA~E群に割り振り、各受検者がその中で一つの群を選択することとした。更に、各群の問題は、4から5問出題し、その中から3問を選択解答することした。学力選抜の場合も出願時に入学動機レポート(仮称)の提出を課すこととした.

選抜方法:調査書(40点)・英語(100点)・専門(150点)・数学(100点)・入 学動機等レポート(仮称)及びレポート内容に基づく面接(10点)

筆記試験等の実施順:午前 英語(60分)・専門(90分)

午後 数学(60分)・入学動機等レポート(仮称)に基づく面接

実施時期:平成22年度専攻科入試は、前期及び後期学力選抜を実施(6月22日と 11月14日)

筆記試験免除科目:英語

免除資格の取扱い: TOEICのスコア300点以上及び英検2級以上を免除とし、その資格に応じ筆記試験英語の評価を行う。評価方法は、英語科の原案のとおり。これに伴い、免除資格者も、筆記試験英語の受検機会を与え、高得点採用とした。

(出典 平成20年度専攻科委員会)

資料4-2-2-8

「専攻科課程の専攻別修了率」

専攻	入学年度	入学者数		修了者数		修了率(%)	
导 以	八子千反	学力	学力 推薦 学力		推薦	学力	推薦
	平成18年度	6	6	6	6	100	100
	平成19年度	3	13	3	13	100	100
生産システム工学専攻	平成20年度	6	10	6	9	100	90
	平成21年度	3	11	3	11	100	100
	平成22年度	3	11	3	11	100	100
	平成18年度	2	12	2	12	100	100
	平成19年度	5	9	3	9	60	100
環境システム工学専攻	平成20年度	4	12	4	12	100	100
	平成21年度	3	13	2	13	67	100
	平成22年度	4	9	4	9	100	100

(出典 学生課)

(分析結果とその根拠理由)

アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかについて,本科及び編入学生選抜では、学生募集と入学者選抜については入学試験委員会が,入学後の学生については教務委員会が検証を行い,両委員会が連携して入学者選抜の改善を行っている。また,専攻科生選抜では、専攻科委員会が選抜方法の検証と改善を継続的に行っている。

観点4-3-①: 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われる等、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

本科入学者選抜における定員は、各学科40名である。推薦選抜ではそのうち15名程度とし、学力選抜を含めて定員を満たすよう合格判定を行っている。さらに学力選抜においては、2年進級時に転科が可能な工学基礎コースを設置し、中学時点での学科選択という高専希望者にとっての敷居を低くし、受験者増及び本校に適合した学生の受け入れへの取組みを行っている(資料4-3-①-1)。本校の合格辞退者は極めて少数であることから、定員の40名を合格とし、辞退者がある場合には追加合格により定員を満たすようにしている(資料4-3-①-2)。入学試験委員会では、中学生の減少を受け、優秀な学生の確保のための方策を検討している。平成20年度に推薦要件を緩和し、募集人員を30%程度から35%程度に増加させ、平成22年度には募集人員を35%程度から15名程度に増加させるとともに、イ要件の「科学の分野」について技術者を養成する本校の使命の観点から「科学や技術の分野」とした(資料4-3-①-3)。



資料 4-3-①-2

「本科合格者数と実入学者数」

3 合格者数, 辞退者数, 入学者数等一覧(年度別)

3 合恰有数, 矸返有数, 个子有数寺一見(牛皮別)															
学	学 科 事		平成2	0年度	平成2	1年度	平成22年度			年度	平成2	平成23年度		平成24年度	
	17	募集人員	合格者	入学者	合格者	入学者	合格者	辞退者	追 加	入学者	合格者	入学者	合格者	入学者	
機械工	学科	40	40(1)	40(1)	40	40	41(1)			41(1)	40(1)	40(1)	40(2)	40(2)	
電気電	子工学科	40	41(2)	41(2)	40(3)	40(3)	40(3)	1	1	40(3)	40(5)	40(5)	40(2)	40(2)	
電子情報	電子情報工学科		41(6)	41(6)	40(4)	40(4)	40(5)			40(5)	40(8)	40(8)	40(8)	40(8)	
物質工学	学科	40	40(14)	40(14)	40(14)	40(14)	40(12)			40(12)	41(20)	41(20)	41(17)	41(17)	
環境都7	市工学科	40	41(10)	41(10)	40(10)	40(10)	40(9)			40(9)	40(12)	40(12)	40(17)	40(17)	
合	ā†	200	203(33)	203(33)	200(31)	200(31)	201(30)	1	1	201(30)	201(46)	201(46)	201(46)	201(46)	

(備考)()内の数字は内数で女子を示す。

(出典 学生課)

資料4-3-①-3

「本科推薦選抜における推薦基準の改訂」

- 20年度に改訂した内容は以下の通りである。
- (a) 推薦要件の緩和(対象学年を2、3年とし、基準点数を68点以上に低減)
- (b) 募集人員を30%程度から35%程度に5%(各科2名)増加

次に、22年度に改訂した内容は以下の通りである。

- (a) 募集人員を35%程度から15名程度に増加(2.5%(各科1名)増加)
- (b) イ要件の「科学の分野」を「科学や技術の分野」に改正

この改定案は、過去の入試データおよび入学後の成績との相関を詳細に検討して割り出しており、入学後の1年生の成績を調べてみると、この基準で推薦入学した学生の成績は問題がなく適性であることを確認している。今年度の推薦要件についてもいくつか改正案を提案し検討したが、最終的に基準は変更せずに、広報活動を充実することで対応することにした。

(3) 入試会場の5会場体制の継続と整備

福井高専会場と滋賀県彦根市会場以外に、19年度に嶺北北部のあわら市、20年度に嶺南の敦賀市、そして21年度は人口の多い福井市に学力検査会場を新設し、学力検査は5会場体制になった。21年度の福井市会場は、JR福井駅に隣接し、交通の便が良いアオッサ7階の放送大学福井学習センターで実施した。22年度から福井市会場の収容人員を増加し、受験生

(出典 平成22年度自己点検・評価報告書)

編入学生選抜における定員は、各学科若干名である(前出資料 4-1-①-7)。受入予定学科の 4年生の人数が教育に支障をきたさないよう合格者数を検討し、合否判定を行っている。編入学選抜 における出願者数・合格者数は(資料 4-3-①-4)に示す。

資料 4-3-①-4

「編入学選抜における出願者数及び合格者数」

			電気電子工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	合 計
H24年度	出願者数		2				2
1124年及	合格者数		2				2
H23年度	出願者数	3		1	1		5
1123年度	合格者数			1			1
H22年度	出願者数	4	1	2	2	2	11
1122千度	合格者数	1	1	1	1	2	6
H21年度	出願者数	1	1	1	1		4
1121千度	合格者数	1	1	1			3
H20年度	出願者数	3	1		2	1	7
1120千度	合格者数		1		2		3

(出典 学生課)

専攻科生選抜における定員は、生産システム工学専攻12名、環境システム工学専攻8名の計20名である(前出資料4-1-①-6)のに対して、実入学者数は30名程度である(前出資料4-2-2-②-8)。専攻科では、定員25名の講義室1、定員40名の講義室2、定員16名のゼミ室3、及び10名程度収容できるゼミ室1とゼミ室2を利用して講義を行っている。システム工学実験では専攻科生を少人数のグループに分けて、複数の教員がそれぞれの実験室等を利用して実施している。また、特別研究では指導教員1名に対して専攻科生1、2名程度であり、それぞれの設備において定員を超過している影響は少ないと考えられる。

(分析結果とその根拠理由)

過去5年間の入試実績より、本科の実入学者数は定員どおりで適正になっている。また、受検者数増に向けた取組みがなされている。編入学生選抜では、入学後のクラスの人数が教育に支障のない事を確認した上で合否判定を行っており適正である。専攻科生選抜では、実入学者数は定員を上回っているが、教育・研究に支障のない体制と、講義室、実験室等の設備が備わっている。

(2)優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育の目的に沿って、本科及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーがそれぞれに定められており、社会に対し理解しやすい表現で説明を行って本校の教育目的に共感する優秀な学生の確保に努めている。本科における選抜では、科学や技術の分野における優秀な成果に関する口頭発表を評価に加える出願要件、及び2年次に転科が可能な工学基礎コースを設けており、多様な学生を受け入れている。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準4の自己評価の概要

本校の教育の目的に沿って、本科及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーがそれぞれに定められており、学校案内、ホームページ、学生募集要項や学生便覧等に記載するとともに、中学校訪問時や学校説明会、体験入学、各種イベントなどで説明を行い、広く社会に発信し、本校の教育目標に共感する学生の募集に努めている。また、社会に対し理解しやすい表現に努め、具体例を示してわかりやすく口頭で説明を行っている。

全教職員を対象としたアドミッション・ポリシーの周知度調査により、実際の教育を行う教員に対して本科及び専攻科課程のアドミッション・ポリシーが広く周知されていることが確認できた。また、入学者選抜がアドミッション・ポリシーに基づいて実施されていることに対しては、本科及び専攻科課程ともにほぼ全員に周知されているという結果であった。

本科及び本科4年次編入学生の選抜は入学試験委員会で、専攻科課程の選抜は専攻科委員会で、それぞれのアドミッション・ポリシーに沿った適切な入学者選抜を実施している。特に、小論文と面接においては、アドミッション・ポリシーに深く関わる観点に基づいて評価選抜しており、適切な学生の受入方法が採用されている。本科の推薦による選抜では、科学や技術の分野における優秀な成果についての口頭発表を評価に加える出願要件を設けており、また学力による選抜では2年次に転科が可能な工学基礎コースを設置し、多様な学生を受け入れている。実際に入学した学生の基礎学力について課題確認テストを実施し、入試制度を定期的に検証している。

過去5年間の入試実績より、本科については定員どおり、本科4年次編入学生においては定員以内 が入学している。専攻科課程では入学者が定員を上回っているが、教育・研究に支障のない体制と、 講義室、実験室等の設備が備わっている。